

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本血栓止血学会

理事長 松下 正

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

学術集会（1978年より毎年開催）

学術推進委員会（SPC）シンポジウム（2005年より毎年開催）

学術標準化委員会（SSC）シンポジウム（2006年より毎年開催）

教育セミナー（研修医・若手医師向け 2013年より毎年開催）

学会誌の発刊（1970年～より）

学術奨励賞（1994年より授与）

岡本賞（2017年より授与）

<ガイドライン作成>

インヒビター保有先天性血友病患者に対する止血治療ガイドライン

インヒビターのない血友病患者に対する止血治療ガイドライン

後天性血友病A診療ガイドライン

DIC 診断基準

b. 当該領域における国際的な役割

第23回国際血栓止血学会開催（2011年）

アジア太平洋血栓止血学会（APSTH）ジョイントシンポジウム（2005年より毎年開催）

c. 活動からもたらされる社会的な意義

COVID-19 チームが出したいくつかの提言

被災地における肺塞栓症の予防について（熊本豪雨：新規）（熊本地震）

市民公開講座「特発性血小板減少性紫斑病（ITP）をめぐる最近の話題～研究班の成果を解りやすく解説

認定医制度

d. 学会運営上留意している点

本学会は生体防御の一環として重要な止血機構と人類の主たる死因である血栓症を基礎から臨床まで幅広く研究する、生化学、生理学、脈管学、循環器学、小児科学、外科学、産婦人科学等の研究者から成る横断的、学際的性格の強い学会であり、特定の臨床・基礎領域の利益に左右されないような運営を目指しています。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活

動を記載してください。

日本救急医学会ジョイントシンポジウム（2007年より毎年）

日本検査血液学会ジョイントシンポジウム（2021年より）

アジア太平洋血栓止血学会（APSTH）ジョイントシンポジウム（2005年より毎年）

[貴学会からの期待・要望]

貴学会から日本医学会に期待すること、日本医学会への要望について記載してください。

出血性疾患はもとより、人類の健康において血栓症が如何に重要な位置を占めるかを考えれば、わが国の血栓症の基礎研究者は少なすぎると思われます。そして今また COVID-19 の予後を大きく左右する病態として血栓症がクローズアップされ一刻も早いその制御がのぞまれる中、この分野の研究の発展の加速にお力をお貸し頂きたいと思えます。

一方、近年のわが国の臨床研究の停滞ぶりはとみに指摘されているところであり、医学会連合は臨床医学全体のレベルの底上げを目指して、国に支援を働きかけて頂きたいと思えます。最後に、医学会連合は、引き続き科学的な見地に立ってわが国の Academic Medical Society を牽引する独立機関として、わが国の医学の発展と、ひいては国民の健康の増進に寄与されるよう、本学会は加盟組織として協力を惜しみません。